

【目的】 既報¹⁾において、瘦身機能を付記した衣料品の表示及び広告の実態、並びにそれら衣料品に対する消費者の態度を明らかにした。本報では、サウナスーツ(以下S)を取り上げ、果してSが表示及び広告通りの瘦身機能を有しているかどうかを、着用実験によって検討した。

【方法】 被験者は健康な女子学生9名で、供試服は、S(ビニル100%)、綿(C,綿100%)及びポリエステル(P,PET100%)のニット上下である。着衣形態は、Sの下に衣服を着るよう指示されているため、S着用時:S+C及びS+P、S非着用時:C及びP、の4条件を設定し、1人1日1回、日を変えて着衣形態の異なる4実験を行った。実験コースは、5分安静+10分運動+20分回復の計35分間とし、気温24℃の実験室内で行った。実験前後の体重及び衣服重量の測定から、総発汗量、有効及び無効発汗量を求めた。その他の測定項目は皮膚温、舌下温、衣服内温湿度、主観的温冷感、湿潤感、快適感などである。さらに発汗サーマルマネキンを用い、上記着衣形態の衣服気候を測定した。

【結果】 ①S着用時と非着用時の総発汗量には、有意差がなかった。非着用時の有効発汗量はS着用時より有意に多く、無効発汗量は逆に非着用時が有意に少なかった。②非着用時の皮膚温はS着用時より有意に低かった。③S着用時の衣服内気温・気湿はともに、非着用時に比べて有意に高く、発汗サーマルマネキンの挙動によっても支持された。④S着用時に湿り感及び不快感を訴えた者の率は、非着用時に比べて有意に高かった。なお、S+CとS+Pの発汗量には有意差がなかった。 1)田村他;日本家政学会第40回大会研究発表要旨集,pp.123-125(1990)